http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html　　平成２４年３月１２日発行

中北.com

地域教育情報紙

チュウホク ドット コム

no 6

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

中北の地域社会（COMmunity）の心の交流（COMmunication）をめざします

平成23年度　第2回峡北地区「地域教育推進連絡協議会」開催

平成２４年２月１６日（木）に，第２回峡北地区地域教育推進連絡協議会が韮崎市の北巨摩合同庁舎で，研修会・協議会が開催されました。

研修会「地域とともに育つ学校」

甲斐市立双葉西小学校長　福 嶋 尚 美 氏

【講 演 の 内 容】

双葉西小学校は，中央線塩崎駅を中心とした甲斐市では小さい規模の学校です。隣の双葉東小学校というのは，現在６００名を超えて，高台の方にある新興住宅地を抱えたとても大きな学校ですが，西小学校は，児童数は３５０名位になります。

それでは，地域とともにある本校について，私たちと地域の方々と歩んだ２年間を，説明をさせていただきます。

双葉西小学校は，とてもきれいな学校です。私は，４月に赴任しました。ちょうど桜が咲いており，富士山がよく見え，「いい学校だな」と思いました。双葉西小学校には古い桜の木があります。この桜は，開校時から校庭にあり，１３８年前に学区制とともに発足した本校は，やはり日本で一番古いということになります。この桜も樹齢１３８年ということでしょうか。私達は，これを“桜先輩”と呼んで大事にしています。

今回，私が赴任し，前校長の引継の中で，地域の方々とともに研究をしたのは，保護者や地域の方々の意見や求めを学校運営に活かす方法の研究です。コミュニティ・スクールの調査研究校ということもあり，学校評価の在り方や色々な話し合いの仕方，それからアンケートを実施して，地域住民の要求を知り，それを分析する。そして，学校ボランティア，学校応援団がありませんでしたので，それを募集して組織する。さらに，地域の様々な組織の方々と，学校教育について話し合いをする。学校支援地域会議を発足させるということです。

具体的には，“ホームページ”“学校だより”などにより，保護者や地域住民への情報を積極的に提供していく。それから，色々な会議や総会，双葉地区民会議で，このような取り組みをしているという呼び掛けをしました。

（中略）

とにかく，やりながら考える，考えながらやらないと公開発表の都合もあり，間に合いませんので，「あなたも学校応援団」というポスターを作り，郵便局や，地域のお店屋さんなど，様々なところに貼っていただきました。

双葉西小学校のために力を貸してくださいという，声掛けを行っていきました。そして，一方で私達は，地域の方々の本音や，私達が今まで気付いていなかったことについて，とことん突き詰めようと思いました。

そこで，次の４点について，地域の方々を対象に記述式のアンケートを行いました。

①子どもたちについて何を望みますか。②先生方にどんなことを望みますか。③学区の住民について，どんなことを望みますか。④学校応援団の活動について，どの様に考えていますか。

この分析の結果，見えてきたのは，文部科学省が一番にうたっている“学力向上”ではなかったのです。「思いやりのある，心豊かな子どもに育てて貰いたい」「地域の伝統や文化を学び，地域の良さに気付き，地域を大事にする子どもを育てて貰いたい」「子どもたちに，地域行事に積極的に参加をするように呼びかけて貰いたい」「学校応援団を作るのであれば，地域の人たちに積極的に授業に係わるようにして貰いたい」

また，「学校は地域にお願いするばかりではなく，学校も地域にできることを考え，双方向で信頼関係を作って貰いたい」等，これらから，地域の方々の願いがアンケートの結果より見えて来ました。

その中で，最も多かったのは，「今，学校は弱腰だけれども，とにかく毅然とした指導をして貰いたい」「良いことはよい，やる事はやる，だめなことは駄目，毅然とした指導をして貰いたい」ということでした。

【会長あいさつ・浅川　宏　北杜市教育委員長】

そこで私たちは，地域の方々と一緒に授業を創り始めました。地域の方々がお客様，先生としてではなく，来てくださった方も刺激を受けていただけるような関係を作ろう。子どもや教師も，今まで以上に意識して積極的に地域に出て行こう。それから，地域の方々や保護者の方々に，これまで以上に気軽に学校に来て頂く機会を増やそう。公民館や，色々な関係機関と仲良しになろう。そうすることによって，地域とともにある学校を実現していき，意識を統一した取り組みを始めました。

（中略）

【熱心に聞き入る委員の方々】

とにかく，あまりスタートダッシュで張り切ってしまうと続きませんので，無理なく，できる時に，できる人が，できることを，細々と長く続けることだと，地域の皆さんと確認をしました。

そして，学校支援の活動が広がると，私たち教師は，人材を捜さなくても，コーディネーターの方に，「こんな事があるのだけど」「これはないでしょうか」「こんな方はいないでしょうか」「こんな物はそろわないでしょうか」というだけで，あっという間に集まりました。そうすると，教育内容は充実します。教師は授業に集中します。また，地域ならではの“学び”が成立します。

人と人の絆を結ぶことで，必然的に学校は人が集う場となります。学校を中心とした，地域コミュニティの形成ということを，声高に叫ばなくても，これを細々と続けていくことで，出来ていくのではないかとも思います。

（中略）

学校が地域にできることは，まず一つは，応援を頂いたら，子どもたちが，「ありがとう」の気持ちで学んだことを必ず地域の方々に伝える。

また，ゲストティーチャーに対しても，「僕はこういう事が分った」という感謝の気持ちを，手紙やレポートにして渡すようにしています。

平成22･23年度　文部科学省指定　調査研究指定校事業

「コミュニティ・スクールの推進への取組」

公開研究会　　甲斐市立双葉西小学校

平成２４年１月１９日(木)に，甲斐市立双葉西小学校は，コミュニティ・スクールの普及推進に向けて，多くの参加者のもと，公開研究会(ゲストティーチャー「学校応援団の方々」による公開授業・シンポジュウム)を開催しました。

ー地域と共にある学校ー

文部科学省では，コミュニティ・スクールの普及推進のため，平成１７年度から「コミュニティ・スクール推進事業」を実施し，双葉西小学校は平成２２年度～２３年度に調査研究校としての指定を受けました。「学校運営協議会制度の活用を推進するため，制度運用の方策を研究・開発し制度の円滑な普及に資する」というのが趣旨で，調査研究の内容としては地域の実情に応じた課題を県教育委員会が設定し，次のような調査研究を実施するものです。

- **保護者や住民の意向を適切に把握し，学校運営に反映させる方策の検討。**
- **地域の人材の効果的な活用の在り方。**
- **学校運営協議会による学校評価の積極的な活用の在り方。**
- **学校支援地域本部事業との連携・役割分担の検討。**

学校が家庭や地域と連携・協力し，一体となって子どもの健やかな成長をはかっていくためには，まず学校自身が意識変革をしなければなりません。保護者や地域住民の意向を把握して，その状況を周知することで説明責任を果たすのですが，これが制度的組織的に整備されれば,「地域に開かれた学校」つくりの推進は可能になります。これらの考えに基づいて実施されていた学校評議員制度をさらに保護者や地域の積極的な学校経営への参画という視点で一歩進めたのが学校運営協議会制度です。

山梨県における初めての調査研究校として，双葉西小学校が研究の軸足を置いたのは,「はじめに制度ありき」ではなく「はじめに地域(家庭)ありき」「はじめに子どもありき」です。つまり，これまでにも即時的に支援をいただいた地域の教育力を「ひと」と「もの」と「こと」にわけて調査し，その結果を整理して組織化することによって，子どもたちの授業と編んでいくことでありました。

学校応援団を新たに募り，各地域組織との連携による「学校支援地域会議」の開催をもってこの制度についての具体的な調査研究に入った事は，保護者や地域住民が求めている「あるべき学校の理想像」や「教育内容」･「教職員の姿」への言及となり，校長の策定する学校運営の基本的な方針を認め支える合意を，結果として創り出していきました。

【ゲストティーチャーによる公開授業】

学校運営協議会制度が正しく機能するためにも，学校は的確な情報を公開し，広く深い見識を持った委員や学校に関する諸活動を支援する学校応援団などと情報を共有する大事さも実践から明らかになりました。

コミュニティ･スクール(学校運営協議会制度)とは？

保護者住や地域住民が，一定の権限をもって積極的に学校運営に参加することで，学校改善を進めいていく制度

1. **校長の策定する学校運営の基本的な方針を承認する。**
2. **学校運営に関して，教育委員会または，校長に意見を述べることができる。**
3. **学校の教職員の任用に関し，学校長の求めに応じて，意見を述べることができる。**

平成23年度　南アルプス市教育委員会指定
「学びの質を高める授業づくり推進事業」
公開研究発表会　　南アルプス市立八田小学校

平成２４年２月１０日(金)に，八田小学校では，南アルプス市教育委員会より平成２３年度「学びの質を高める授業づくり推進事業」の指定を受け，「習得・活用・探求」をキーワードに，学校・家庭・地域が協働する中で研究を進め，多数の教育関係者・保護者・地域の方々の参加のもと，公開研究発表会を開催しました。

《研究テーマ》
子ども一人一人が，基礎・基本を習得し，活用し，探求していく授業のあり方

（研 究 発 表 か ら）

現在，学校教育における様々な課題を解決するために，教育改革が進められています。社会や時代の変化と共に変えていかなければならないことはたくさんあります。

しかし，改革が求められている時代だからこそ，大切にしなければならないものは，不易と流行であり，その一つは，学校教育の本質は何かと常に問い続ける姿勢です。

八田小学校では，子どもを「心ゆたかで，かしこく，心身ともに健やかで，たくましく」育てる営みをしています。

全体会・PTAの発表の様子

ＰＴＡ（３６３世帯）・学校応援団（４０名）・子どもを守る会（１９０名）・後援会（１，９００世帯）・子ども１１０番の家（７２ヶ所），これは，今年度，家庭や地域で，八田小の子どもたちを育てている方の数です。

八田地区では，これまで長きに渡り，地域の担い手である子どもたちの確かな学力と豊かな人間性の育成，地域の教育力の向上をめざして「学校と家庭・地域の協働による教育活動」に取り組んできました。未来を担う子どもたちを育てることを，学校と家庭・地域の共通の願いとして，学校を核として，教育活動を進めてきました。その結果「子ども，家庭，地域」のいずれにとってもよい成果を得ています。

５年生・「音楽」の授業

八田小学校では，ＰＴＡが中心になって，早寝早起き朝ごはん，親子読書・家庭学習の充実，自分の身は自分で守ること，自尊感情の向上に取り組んでいます。家庭で落ち着いて勉強できる状況にすることや，親子読書の習慣化，そして何より，朝ごはんをしっかり食べて元気よく登校することなど，家庭の学習環境を整えることは，子どもの学習意欲を高め，学びの意欲をもち続け，子どもと教師が学校での授業を質の高いものにしていくことと何らかの関連があるものと考えています。これまでのＰＴＡの取り組みの成果は，子どもや保護者の意識調査の結果から，昨年度よりも今年度，４月よりも年度末の今と確実に向上しています。早寝早起き朝ごはんなどについて，みんなが話題にし，無理をせず，しかし休むことなく毎日取り組むことによって，凡事徹底することによって，成果は必ず上がると思います。

１年生・「算数」の授業